

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	飯田 隆夫
研究テーマ	相模国大山寺縁起と木太刀奉納習俗に関する研究
研究概要	本研究は科研費「2019 年度若手研究」（3 年間）中の 2020 年研究に基づく。寛永 14 年真名本写本「大山寺縁起」は、徳川家第 3 代家光と春日局による祈禱寺院化と関係する。また、大山寺の木太刀奉納は文献上、初代市川團十郎の元禄 6 年『自記』が初見である。この「大山寺縁起」と木太刀奉納の習俗は、近世相模大山信仰の初期的な重要課題と捉え、この 2 つの研究を 2020 年度の立証課題として進める。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>現地調査は 2 回（2/19 西八代郡市川團十郎記念館・11/21 神奈川県大山）、文献収集は、国会図書館・都立図書館・岐阜県立図書館・江戸東京博・神奈川県立文書館・千葉県立図書館などで行った。</p> <p>(1)相模大山寺縁起</p> <p>相模大山寺縁起は、真名本・仮名本 17 種存在し、うち 1 点を除く他は寛永 14 年以降の写本である。これら縁起作成の背景には、①寛永 16 年の南宮社・知足院・大山寺宛造営下賜金（『徳川実紀』）、②寛永 2 年以降 7 年間の別当不在をへた寛永 10 年の箱根金剛王院賢隆の別当就任（『箱根神社大系』）、③寛永 16 年の知足院 3 世増栄の代参、春日局の手長供（「大山寺旧記」）などの点が大きく関わる事が判明した。縁起作成は、徳川家光・春日局の下で相模大山寺の祈禱寺院化へ結びつくと論証資料を得た。</p> <p>(2)木太刀奉納</p> <p>相模大山と関東周辺地域には、近世期の奉納木太刀が多く存在するが、発祥の由来は詳らかでない。</p> <p>この発祥由来を、①初代市川團十郎の元禄 6 年『願文』をもとに、団十郎年譜・荒事の創始者の再検討、古浄瑠璃 2 代目和泉太夫との交流から、②団十郎の木太刀の奉納動機を、元禄 10 年「参会名護屋」・「兵根元曾我」（『元禄歌舞伎傑作集』）から団十郎歌舞伎における大太刀の意義を、③参詣地大山に現存する木太刀や参詣地の同時期の参詣動向や随筆文献をもとに団十郎の木太刀奉納の関係性により明らかにする立証材料を今年度、蓄積した。</p>
2. 競争的資金等への応募と採択	<p>研究課題「山岳参詣における木太刀奉納習俗と大山御師の身分形成過程の調査研究」科研費（若手研究）採択、研究機関 2019 年 4 月 1 日—2022 年 3 月。</p>
3. 今後の課題	<p>(1)・(2)の調査・検討結果に基づき、(1)は、「近世初期における関東古儀真言宗寺院の祈禱寺院化」（仮題）として 2021 年度内に学術誌への発表を行う。(2)は、「初代市川團十郎の願文と大山木太刀奉納」（仮題）として 2021 年度内に学術誌への発表を行う。2019 年科研費課題「山岳信仰における木太刀奉納習俗と大山御師身分の調査・研究」の後半は(1)・(2)の調査・研究以後に取り組むこととする。</p>